



高齢者や障がい者が住みやすい 町づくりのレポート

大阪市立咲くやこの花中学校 3年生

なか やま も も こ
中山 桃々子

調査地：此花区（ユニバーサルシティウォーク）

私の祖父は脳梗塞のため、左半身が不自由である。そこで私は、ユニバーサル・シティウォークは祖父のような障がいのある人にとっても安心できる施設なのかを調べた。

まず、駅の中にはエレベーターがあった（写真1）。「今ではどこの駅にでもある」と思われるかもしれないが、無い駅もある。その1つとして、祖父の家の最寄り駅だ。その駅は、向かいのホームに移動するためには階段を使うしかなく、祖父は階段を上ることができないため、いつも少し遠いエレベーターのある駅までタクシーを使って行っているという。また、祖父に聞いてみたところ、足が不自由な人はエスカレーターに乗りにくいそうだ。動いているところに乗ることが難しいらしい。そのため、祖父は病気にかかってから一度もエスカレーターに乗ったことがない。

そして、「障がいのある人に必要なもの」として多くの人思い付くであろう点字ブロック（写真2）。もちろん駅にあって、私はこれも良い設備だろうと思っていたのだが、これに関しては祖父にとってはあまりよくないものだという。その理由は、「つまずく」からだ。点字ブロックは目の不自由な方のためにあるもので町中にはたくさんあるが、それによってつまずく可能性があるらしい。タイルのつなぎ目でもこけそうになるほどの

で、点字ブロックのような凹凸は足の不自由な人にとってはより危険なものだという。

またエレベーターの他にも、点字の案内板や公共トイレなど、どんな人でも快適に利用できるような設備（写真3・4・5）がシティウォークには多くあった。また障がい者とはあまり関係ないが、日本語や英語、韓国語、中国語などの言語で書かれた案内がたくさんあった。これは、様々な国の人を訪れる、ユニバーサルシティならではの工夫だろう。

こういった点からみて、ユニバーサル・シティウォークにはすべての人が快適に楽しめるための配慮が多くあることが分かった。しかし、そういった配慮の一つである点字ブロックが、ある人にとっては障がいになるということを知ってとても驚いた。そして、シティウォークは点字ブロックが多いため、足の不自由な人にとってはあまり良くないのかもしれない。けれども、普段はあまり考えずに利用しているユニバーサルシティ駅やシティウォークにも福祉の配慮がたくさんあり、また改めて祖父の話聞くこともできて新しい発見があった。当事者の人のアイデアなども織り交ぜながら新たな設備を作り出して、さらに大阪がどんな人でも住みやすい街になることを望んでいる。



写真1



写真2



写真3



写真4

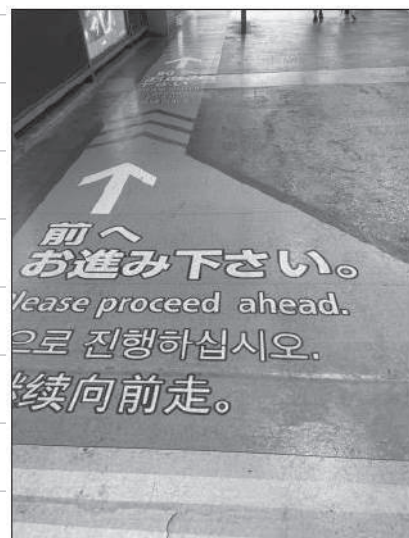


写真5



審査委員
特別賞

バリアフリーの重要性

大阪市立淀商業高等学校 1年生

ちはら かのん
千原 花音

調査地：(阿倍野区) 天王寺 (アポロシネマ館内)

私は、授業で車椅子体験をした際、車椅子を動かす大変さなどを知りました。自分の住む町ではどのようなバリアフリー設備があるのか気になり、普段利用している映画館やバスを実際に車椅子に乗って体験し、調べてみることにしました。

まず私が一番始めに見つけたのが、バスの『ニーリング』という動作です。この動作は、バスが停車し扉が開く時に、乗降口のある左側にバスが傾くというものです。このニーリングにより、スロープを使って車椅子の乗り降りがしやすくなる効果があります。また、その他にも携帯で調べてみると、ニーリングによって乗降口の高さが低くなるので、身体が不自由な方、妊婦の方、高齢者の方、小さなお子さまが乗りやすい工夫があるということも分かりました。その後、スロープを利用して実際に車椅子でバスに乗車しましたが、車椅子スペースに移動しましたが、バスの中はとても狭く、方向転換がすごく難しいことを体験しました。最近は新しいデザインのバスが開発され、そのバスは椅子と椅子の幅や通路が広く取られていることを知りました。バスの走行中は車椅子のブレーキをしていましたが、固定ベルトをせずに乗っていると、停車時や坂の上り下りでは、反動で勝手に動いて危険だということも体験しました。改めて固定ベルトの重要性を考えることができました。

次に私が見つけたバリアフリーは、映画館

の中にもありました。実際に車椅子で映画館に入ると、車椅子スペースがあり、車椅子に座ったまま映画を観ることができました。映画館のスタッフの方に話を聞いてみると、車椅子専用スペースの事を「車椅子席」と言い、車椅子に乗っている方だけでなく、介助者の方も隣で観られるよう、可動式座席があるということを知ることができました。介助者が近くにいることで、車椅子を利用している方は安心するのだらうと思いました。実際に車椅子に座ったまま映画を観てみると、一般席と同様に観ることができて、すごく感動しました。これからもっと車椅子席のある映画館が増えてほしいと思いました。

次に見つけたバリアフリーは多目的トイレです。多目的トイレは、車椅子を利用する方だけでなく、小さなお子さまをお連れの方や人工の肛門や膀胱を装着されている方などが使用できるトイレです。しかし最近では、健常者の方が多目的トイレを使用していて、本当に必要としている方が使えないということが多くあることを知りました。世の中がもう少しバリアフリーについて考え直さなければいけないと思いました。

以上の学習、経験をもとに、福祉を学んでいる立場として、世の中にもっと福祉やバリアフリーについて広めていきたいと思いました。今回の体験はとても貴重なものとなったので、これからの学習が更に楽しみになりました。



↑ニーリング中
坂が穏やかで一人でも上りやすい



↑結構な広さがある。



↑手すりがあって使いやすい。
小さい子ども用のおまる便座もある